



令和5年度 標語コンクール (テーマ：新しい価値観)

最優秀賞

見える色

同じに見えて 違う色

(轟町中学校 高仲さん)

優秀賞

認め合おう

独りじゃないし 一つじゃない

(生浜中学校 小林さん)

変じゃない

これが自分の「らしい」道

(千城台西中学校 重田さん)

探してみよう

自分の中の 新しい光

(幕張西中学校 佐藤さん)

入選

価値感 は 違うからこそ 人の個性

(末広中学校 高橋さん)

認めよう 男がスカート はく時代

(蘇我中学校 刈込さん)

しまわずに

羽をのばして 君らしく

(幸町第一中学校 高橋さん)

認め合おう 十人十色の 価値観を

(幕張西中学校 渡邊さん)

価値感を

たたきあうより たたえあおう

(幕張本郷中学校 谷さん)

八十億 人の数は 価値の数

(真砂中学校 永野さん)



令和5年9月16日に生涯学習センターで「青少年の日フェスタ」に千葉市青少年相談員連絡協議会としてブース出展の協力をしました。

「青少年の日フェスタ」とは、「青少年の日」と「家庭・地域の日」の周知と、青少年と家庭・学校・地域・行政がつながりを持つことで青少年のコミュニケーション力を高め、居場所づくりを推進することを目的に、毎年9月の第3土曜日の「青少年の日」に開催されているイベントです。

千葉市青少年相談員連絡協議会は、昨年来場者から大好評だった「わくわく☆わなげゲーム」を今年度も実施しました。三連休の初日にも関わらず、31名もの相談員がお手伝いに駆けつけてくれました。参加者は、きよんとしながらお母さんと一緒に輪を持って参加してくれた0歳児にはじまり、保護者など大人の方まで含めてなんと279名！金メダルを求めて何度もわなげに挑戦する子もいました。前日に相談員が一生懸命作ったくま

編集後記

学区活動が次々と再開されて、イベント大盛況の報告を受ける一方、中止・縮小していたイベントの再開に皆さんが大変苦労している様子が伺えます。今後は学区やブロックの活動が活発になっていくと思います。子ども達の笑顔のため、頑張っていきたいと思います！

また、標語コンクールのテーマにもありましたが、変化の時代を踏まえ、私たち相談員も子ども達と共に『新しい価値観』を学んでいこうと思います。(広報調査部)

や剣など様々なバルーンアート
の景品を選んだ子ども達の目は
キラキラ輝いていました。

また、同日会場大ホール
において開催された青少年
健全育成功労者表彰式では
7名の相談員が永年の青少
年健全育成活動の功績を称
えられ表彰を受けたほか、
今年度標語コンクールの最
優秀賞及び優秀賞の4名が
地域の健全育成団体や保護
者の見守る中、標語コンク
ール入賞者受賞セレモニーに出
席しました。

学区の活動を紹介します

【中央】新宿中学区



令和4年9月23日に弁天小学校体育館で、保護者も含めて40名ほどの参加のもと、3年ぶりにイベントを開催しました。テーマは「コロナに負けないからだづくり」です。

子どもたちに、広い体育館で

思い切りからだを動かしてほしいと、パラリンピック以降、秘やかな人気のポッチャと、子どもたちが大好きなドッチビーの企画としました。ポッチャは誰もが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツで、戦略の複雑さとコントロールの難しさがクセになります。

今回も子どもたちが本気の本気になって笑ったり悔しがったりする姿が見られました。あっという間にコツをつかんで、みるみる上達する子もいました。

ドッチビーは、グループでの対抗戦のあとは大人チームとも対戦！最初の一つだったフリスビーも、試合終盤に2つになったり、特大フリスビーが投入されたりと、上がる難易度に子どもたちもテンションマックスで体育館中を走り回って楽しんでいました。

今回は感染症対策のため、やむなく人数制限を設けましたが、来年はもっと沢山の子も達と遊ぶことが出来たら良いなと思っています。

【若葉】千城台西中学区

千城台西中学区は千葉都市モノレールの終点千城台にあり、住宅地から少し離れれば農地が広がっています。学区相談員の職業が農業なので、子ども達に楽しんで食育を学んで欲しいと、令和4年11月20日に「わくわく収穫体験ツアー」を行ったところ、コロナ禍にあっても36名と多くの参加者でにぎわいました。皆で千葉市特産品であるニンジン



誰が一番立派なサツマイモを収穫できるか、重さ×太さ×長さで競う「イモリンピック」を開催しました。上位入賞者には素敵な賞品も！



コロナ禍でイベントがなかったから開催してくれて嬉しい、来年はイモリンピックでメダルをもらいたいなど、参加者から嬉しい声をいただきました。

イベント再開はとても大変でしたが、地域の他団体や保護者の方々、参加した子ども達、みんなの協力で大成功に終わることができました！

皆で千葉市特産品であるニンジン

【美浜】幸町第一中学区



令和4年11月19日、秋晴れの下開催されたオータムスクールは、青少年相談員と育成委員会が共催で10年以上続けている秋の恒例行事です。対象は小学生から中学生まで！

中学生は小学生の班行動の

引率をはじめ、ゲームの見守りなど大活躍です！

小学生はそんな中学生の姿に憧れ、「中学生になったらボランティアで参加したい！」と、毎年口々に言っています。

4年ぶりの開催となった今回は「こども110番のいえ」の場所を知ってもらうことを目的に、スタンプラリーを開催したところ、コロナ禍にありながらも、ボランティアの中学生25名を含む90名もの子ども達が元気に参加してくれました！

子ども達は、楽しく見て覚えられるように作られた「こども110番のいえ 幸町2丁目マップ」を手に握りしめ、ポイントに準備されたゲームをクリアしながら、「いざという時に身を守るための場所」をしっかりと学んでくれました。



▲「こども110番のいえ」のマーク

レクリエーション企画力向上研修を受講しました！

令和5年5月20日に、定期総会後の蘇我コミュニティセンター多目的ホールにおいて、68名出席のもと、「令和5年度 千葉市青少年相談員 全体研修会」を開催しました。

今回の研修は、今期から新たに相談員として委嘱を受けた方にレクリエーションを実際に体験していただくことやコロナ禍で中止・縮小していた活動を本格的に再開する学区が増えてきたことなどの背景を踏まえ、イベントやレクの企画立案を行う際のポイントやノウハウを、改めて学び直していただくことを目的として、「レクリエーション企画力向上」をテーマに設定しました。

声を出さずに血液型のグループを作ったり、誕生日順に並んだり、グループのあだなを数珠つなぎで覚えたり、フラフープを使ってグループ全員の気持ちを合わせたり…！一口に「コミュニケーション」と言っても、色々なコミュニケーションの取り方があることを改めて実感しました。

また、イベントに参加する子どもたちはお互いに初対面のことが多いので、最初は参加者全体で、徐々にグループの人数を狭めていくことで、初対面の人同士でも打ち解けやすくなる効果があることを身をもって体験しました。学区活動や市連協の主催イベントに従事する時に、研修で学んだことを活用して、参加者の子ども達と心の距離を縮められるよう頑張ってみようと思います！

